

レセプトデータを用いた臨床研究
子供医療費助成導入が歯科受診に与える影響

東京大学大学院医学系研究科 生物統計情報学講座
大野 幸子

背景: 現在日本では、子育て世代の経済的負担軽減、及び子供の健康保持を目的に各自治体が独自に子ども医療費助成制度を実施している。既存の研究では、自己負担額の減少は、外来受診増加、乳幼児死亡減少、入院減少との関連が報告されているものの、歯科における効果は不明である。本研究の目的は子供医療費助による窓口負担の減額が歯科 受診、および口腔健康状態に与える影響を検討することである。

方法: 本研究では 2014 年から 2015 年の熊本県国保レセプトデータに対し、計量経済学的手法を用いて市区町村単位で分析を行った。レセプトデータに含まれる 2014 年度に小学校 3 年生である歳被保険者の歯科初診回数、総受診回数、受診あたりの医療費、重篤な歯科疾患に対する処置を助成上限年齢別に記述した。2015 年 4 月に助成が終了する群と継続する群でそれぞれのアウトカムの比較を行った。さらに市区町村を固定効果とした固定効果モデルを用いて、助成終了が上記アウトカムに与える影響を検討した。

結果: 受診あたりの医療費、総受診回数、重篤な歯科疾患は助成終了と関連を認めなかったものの、歯科初診回数は助成終了と負の関連を認めた。(ln(助成終了), -0.18; 95% 信頼区間 -0.33~-0.02)。

結論: 学童期における子供医療費助成終了は、歯科初診を減少させるものの、重篤な歯科疾患の発症数に影響は与えなかった。

1. Miyawaki A, Noguchi H, Kobayashi Y. Impact of medical subsidy disqualification on children's healthcare utilization: A difference-in-differences analysis from Japan. Soc Sci Med. 2017;191:89-98.
2. Kato H, Goto R. Effect of reducing cost sharing for outpatient care on children's inpatient services in Japan. Health Econ Rev. 2017;7(1).
3. Ikenwilo D. A difference-in-differences analysis of the effect of free dental check-ups in Scotland. Soc Sci Med . 2013;83:10-8.